



すすむ教育施設の整備

新しい学び舎、が完成しました

留萌中学校
建設

3カ年で13億円を投入

10月1日開校

786名が新校舎で勉学

五十八年度から三カ年計画で建設が進められていた「留萌中学校」の新校舎が完成、十月一日開校を迎えます。

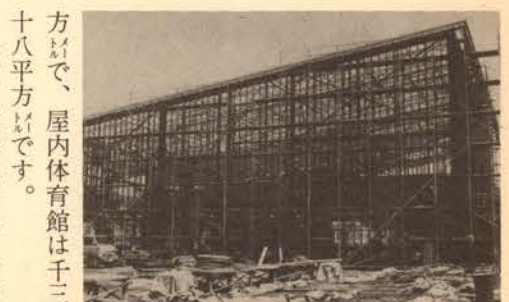
新校舎は、千鳥町三丁目の旧留萌高校跡地に建設。総面積六千四百九十九平方メートル、鉄筋コンクリート三階建、温水集中暖房など近代的な設備を取り入れています。

市では「豊かな人間性をはぐくむ文化都市」を基本理念に、子どもたちの健やかな成長と教育効果の向上を図るため教育環境の整備を進めています。

その中でも潮静小学校（五十二年～五十四年）、沖見小学校（五十五年～五十七年）、緑ヶ丘小学校体育館と一部校舎（五十七年）など各種文教施設の建設を手がけてきましたが、ことは留萌中学校新校舎が完成しました。

旧校舎は、昭和二十五年に建設された木造建物で、三十年余りの年数が経過しており老朽化が激しく、維持管理にも多額の費用がかかる現状でした。

また、当場所は国道二二二



▲10月初旬に完成する屋内体育館

号線に隣接しているため交通量が多く騒音などもひどく、環境衛生のうえでも好ましくないため早くから移転改築が望まれていました。

当初の計画では、五十九年度から建設に着手する予定でしたが、五十七年十月に不慮の火災により校舎の一部九百二十平方メートルを焼失したため計画を一年早め、五十八年度から今年度までの三カ年で建設しました。

新校舎は、学校環境を重点に検討し通学区域内にある旧留萌高校跡地（千鳥町3）に鉄筋コンクリート三階建の校舎本体と屋内体育館を、総工費約十三億二千五百万円で建設されたものです。

校舎面積は六千四百九十九

留中教育の

質的充実を

本校は、昭和二十二年開校し常に草創の精神を堅持し、その時々の課題の解決を図りながら力強い飛躍をとげ、現



留萌中学校長
安田修悦氏

在では、学業はもとより体育・文化活動においても年々充実の一途をたどり、その実績は、全道的にも高く評価されているという歴史と伝統を誇っている学校であります。

そうした歴史の過程においては二度にわたる火災のため校具の一部を焼失するという不幸な事態に遭遇しましたが、その不便さを克服しながら先徒・教師・父母の総力を結集した努力を老朽化した校舎で今日まで継続して参ったところでございます。

この度、昭和五十八年度から着工された校舎がいよいよ竣工の運びになりました。待望久しかった新校舎の落成を地域の皆様と喜びあいたいと思いきと共に関係機関の御理解と大英断に、深甚なる謝意を表す次第でございます。

新校舎は現在の教育が標榜している「人間性豊かな生徒の育成」には最適の環境であり、留中教育の質的充実に向けた意欲を燃やしているところでございます。

旧校舎での 寒さが思い出に

このたび校舎が新しくなるということで生徒のひとりとして、とてもうれしく思っています。



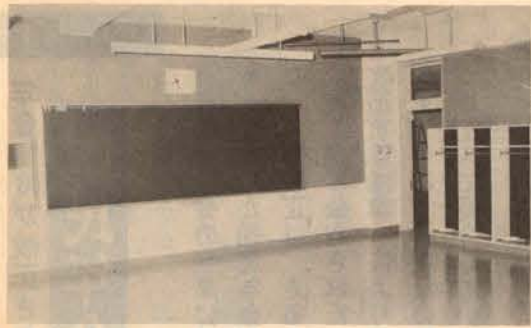
留萌中学校生徒会長
佐々木紀幸くん

僕が最初に留中校舎に入った時、「なんてきたない校舎だろう」と思いました。本当にこの校舎で勉強するのかと疑ったほどでした。廊下を歩くとたびにギシギシと、いまにも音をたててくずれそうな感じ。すこし恐怖さえありました。しかし、校舎に慣れにくるにつれて、その音がないと落着かないようになり、旧校舎と自分が一体になつてしまったような感じ。なんといいっても、一番記憶に残っていることは冬の寒さです。朝学校に行くとき、昔ながらの石炭ストーブのまわり

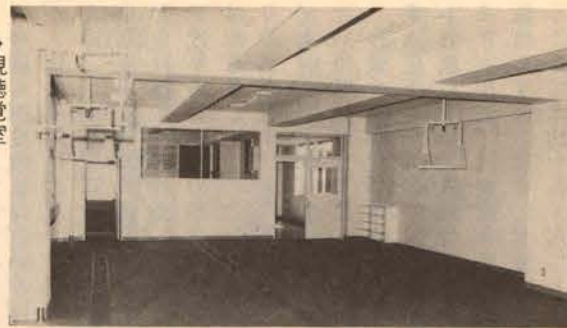
にみんな集まって、火にあたりました。でも、ストーブ側を向いている体半分は暖かいのですが、反対側は、冷凍室にいるような感じでした。

あの頃は、「こんな寒い校舎いやだ」と思っていました。が、いまになって思えば、楽しいとまではいかないけれど、とてもよい思い出です。

旧校舎にいた時は、なにか暖かい人間性があったような気がしました。新校舎に移っても、暖かい人間性が失われなように願っています。



▶ 視聴覚室
◀ 普通教室



▲理科室



▼金工室



▲図書室